

二〇二一年一月三日(南禅寺参加者一六名)

花頭窓明るうしたるもみじ翳	菜々
苔庭の一隅染めて黄落す	"
錆著きインクラインに冷えつゝの	"
筋塀へ楓紅葉の散り止まず	"
楼上に一望千里古都の秋	わかば
法堂の香煙紅葉燻らしぬ	"
手に触れて冷たし苔の水路橋	"
大伽藍抱きて東山粧ふ	"
結界の紅葉トンネルくぐりけり	あさこ
波のごと枯山水の庭紅葉	"
三門をくぐれば紅葉明りかな	"
山寺の句碑輝かす石路明り	"
藁屋根の古民家抱きて山眠る	きづな
散紅葉門しかと勅使門	"
枇杷の花軒すれすれに市電行く	"
冬鴉囀す大寺人の波	"
中空へ重なる万華鏡紅葉	明日香
遠目からまた真下から紅葉撮る	"

寺紅葉衣桁の友禅見ることし	"
九十九折る疎水に沿ひて石路明り	つくし
石に座す推敲の間の紅葉冷	"
もみじ葉に触れもし辿るインクライン	せいじ
樹間よりのぞく塔頭照り紅葉	"
南禅寺疎水に沿ひて紅葉濃し	百合
横の人不機嫌なりし風邪らしき	"
水亭の金繡紅葉揺れやまず	宏虎
捻じくれる太き走り根落葉道	"
冬木立インクラインの道ますぐ	よし子
ほとばしる疎水に乗りし木の葉舟	ぼんこ
三門の四方に錦す寺紅葉	小袖
疎水橋アーチを額に紅葉燃ゆ	かれん
殉職碑寧かれと降る落葉かな	うつぎ
裸木の打ちかぶさりし廃線路	"
たもとほる疎水の小径紅葉冷	"

吟行句会みの選

二〇二一年一月三日(南禅寺参加者一六名)